



慶應義塾大学ビジネス・スクール

品川情報システム株式会社

5

－ダイバーシティと現実－

「私は最近まで、ダイバーシティという言葉を知りませんでした。男女雇用機会均等法は知っていましたが、正直なところ『男女差別はよくないことだ』程度の認識でした。品川情報システムは、ユーザー系の情報システム会社で、もともとは理系の男性技術者の多い職場でした。私が入社した当時は、女性は数えるほどしかいませんでした。情報システム会社の仕事は労働集約的で、システム稼働直前・直後には、深夜労働や夜間労働なども当たり前に行われていました。

10

しかし、最近では、新卒の女性の採用も多くなっています。彼女たちのやる気は高く、男性の新卒よりも優秀な人が多いようです。彼女たちも4年目、5年目と実力をつけてきて、最近では大きな戦力となってきました。一方で、彼女たちも結婚、出産の時期を迎えています。産休、育児休暇を取る従業員も増えており、第二子、第三子のための休暇も取っているようです。会社も優秀な社員を採用するため、産休、育休、短縮勤務など、子育て支援の施策を積極的に打ち出し、会社の内外に広報しています。

15

一方で、ソフトウェア開発はオフショア開発が進んでいます。各種ソフトウェアおよびツールの作成、単体テスト、保守では、中国、インドなどの低コストな外国に作業を委託することも多くなってきました。これまでの日本のソフトウェア開発現場では、プロジェクト一丸となってシステム稼働のために仕事をしてきました。プロジェクトチームは『同じ釜の飯を食った仲間』という意識が強くあります。しかし、外国の方々には、契約にある仕事以外はやりませんし、自分の仕事のやり方には強いプライドがあります。このような考え方の違いは、プロジェクト内に時々葛藤を生じさせることもあります。」

20

25

(相沢賢一とのインタビューより)

.....
本ケースは MBA 学生 渡辺俊典と法政大学大学院イノベーション・マネジメント研究科准教授 高田朝子によって作成された。会社名、個人名および事業に関する事実は偽装されている。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp）。また、注文は <http://www.kbs.keio.ac.jp/> へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。

30

Copyright© 渡辺俊典・高田朝子（2010年5月作成）